

## (2) 市川海岸の潮間帯の将来イメージに類似していると考えられる海岸

葛西海浜公園、昭和55～59年頃竣工。(22～26年経過)

3割勾配、被覆石1トン、前面が遠浅であることなど地形条件が類似する。



観察ライン

中潮帯から低潮帯にかけて、マガキが高密度で着生。(m<sup>2</sup>当たり被度50～80%)

カキ殻の間隙をウネナシトマヤガイやケフサイソガニなど他の生物が棲み場として利用し、マガキを中心とした潮間帯のハビタットが成立している。

中潮帯から低潮帯にかけて  
マガキが密集して着生

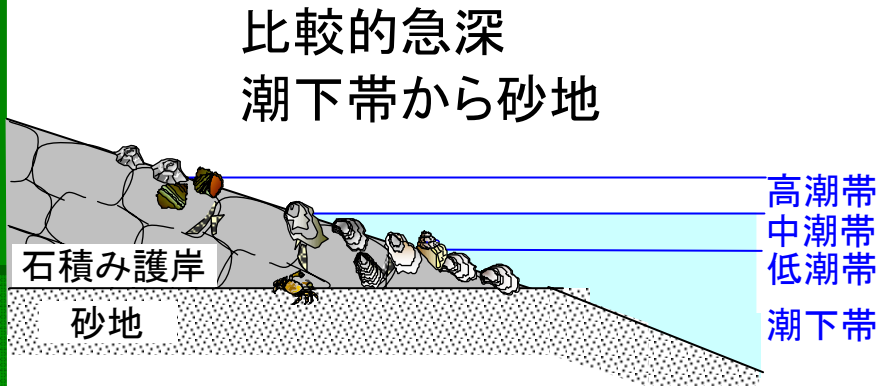


ウネナシトマヤガイ



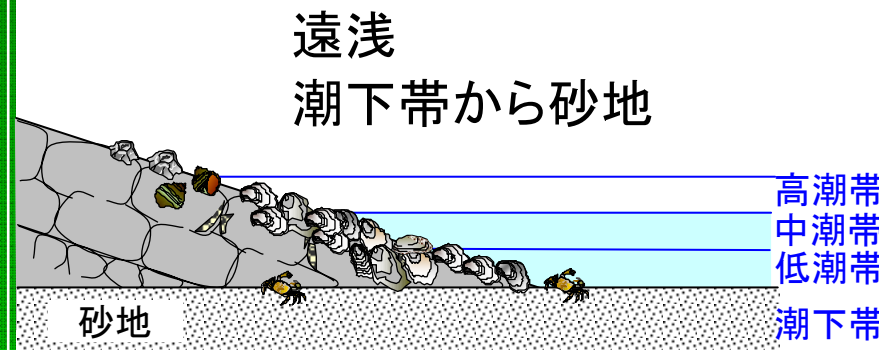
### (3) 事例調査から把握したマガキを中心とした潮間帯ハビタットの成立条件

千葉港海岸  
習志野地区



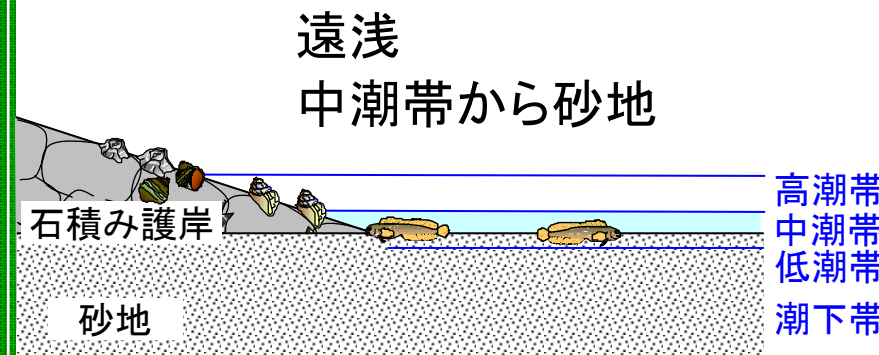
カキの  
付着が  
多い。

葛西海浜公園



カキの  
付着が  
多い。

幕張の浜

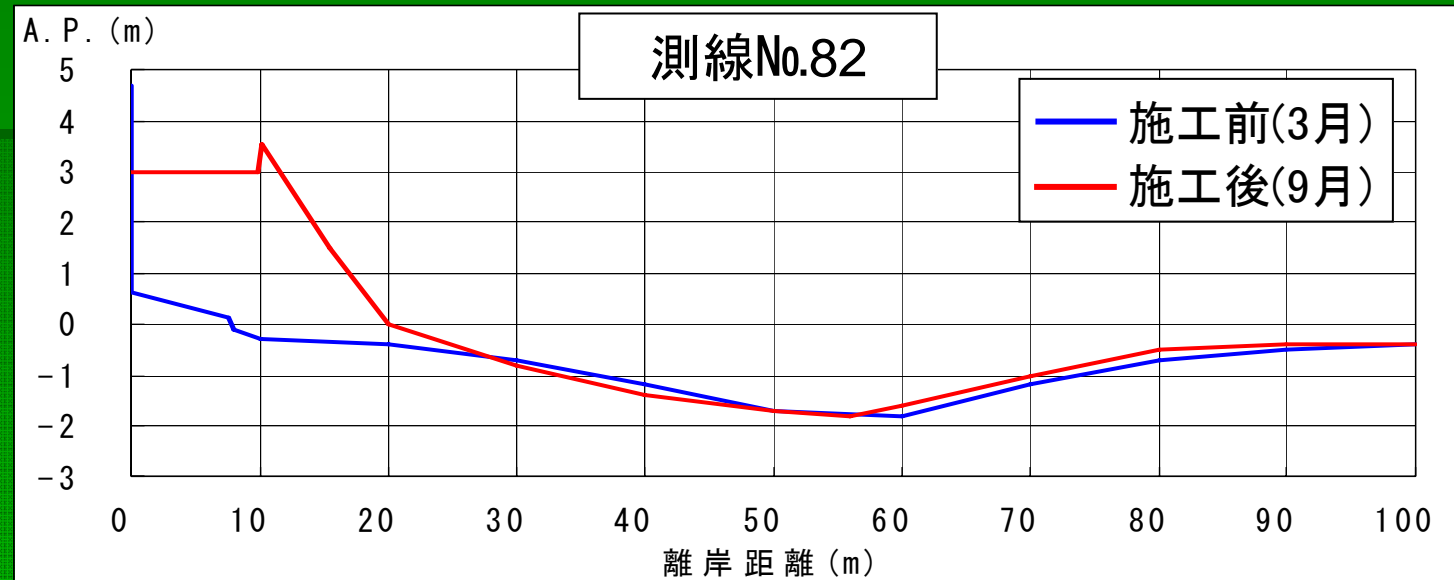


中潮帯  
まで砂  
があると、  
カキの  
付着は  
少ない。

## 2. 環境 (2) 間接的な影響要因について

### (1) 地形

海底地形については、施工前後での地形変化の変動幅は、最大20cmであった。



### (2) 底質(粒径)

#### 工事区域における泥分の比率(%)

距離(m)	22	26	30	40	50	60	70	80	90	100	平均風速	最多風向
施工前3月	13	15	17	64	64	55	17	11	31	29	4.8	北北西
施工後9月	16	17	25	75	68	61	32	25	8	8	3.4	南東

のり先や濡筋底部においては、施工前調査時と同様な泥分の割合であった。

※：泥分：<math><0.005\sim0.075\text{mm}</math>

※：平均風速の単位：m/sec